

自
年
月
日
至
年
月
日

滿蒙政况關係雜纂
松本記録
楊早
常
魏

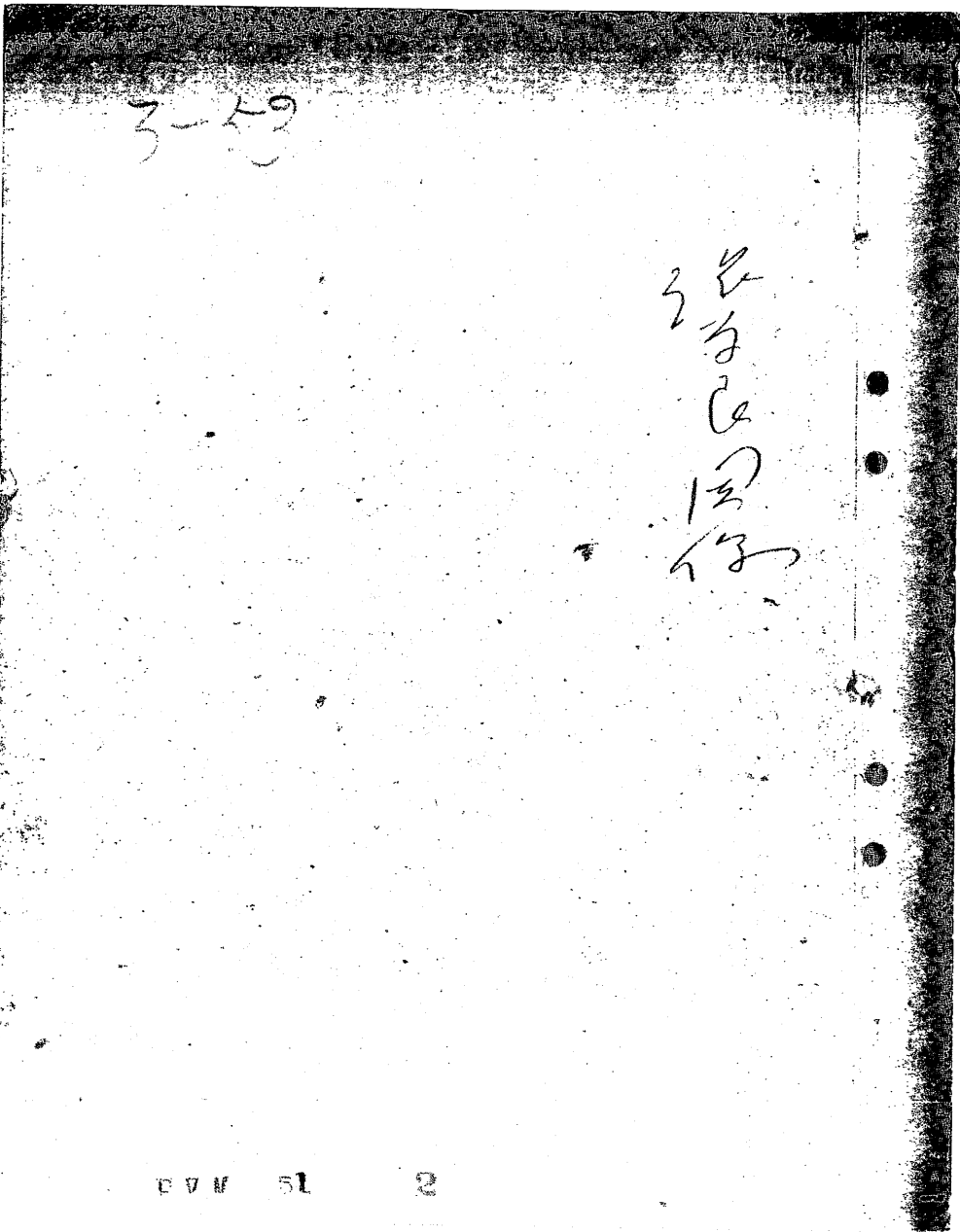
第

松A
6
1
2
1-5

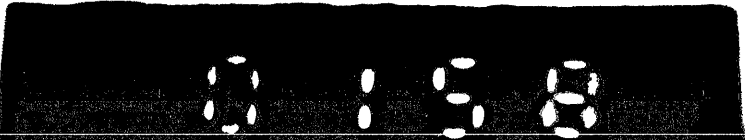
滿蒙政况關係雜纂
楊早
常
魏
松本記録
射問題

REEL No. A-0732

アジア歴史資料センター



REEL No. A-0732



別紙

南京中央党部、蔣國民政府主席、譚行政院長、胡立
 法院長、胡司法院長、戴考試院長、蔡監察院長、
 馮軍政部、李參謀本部、何訓練總監、各總司令
 部、各指揮部、各省黨指委會、各特別市政府
 各省政府、各軍長、各師長、上海各新聞社、奉天吉
 林、奉天、熱河各報各法團宛
 統一告成、建設開始、凡我同胞、正當此
 抗衷共濟、勸力之功、圖心、學良事、予以來
 先人舊有、偉儀、對、予、心、腹、修、頓、台、予、就、中
 東三省、兵、是、解、智、辨、揚、宗、益、是、龍、以、者、者、常、隆

P.V.M. 51 5

槐、二人、事、其、之、ト、日、自、又、シ、ク、倍、務、ス、ト、深、カ
 ナリ、然、レ、ニ、揚、常、ハ、私、心、ヲ、抑、キ、相、通、シ、終、東、一、切、ノ、政、務
 之、レ、ハ、率、解、ヲ、受、テ、諸、事、其、進、行、ヲ、好、ク、シ、リ、其、最、終、狀、ヲ、舉、ク、レ、ハ
 左、數、端、ヲ、リ
 民國十三年、東、屠、次、ノ、戰、禍、ハ、均、ク、被、シ、テ、一、人、ノ、手、中、ニ、終、テ、德、意
 播、弄、ニ、依、リ、其、ノ、陰、謀、秘、計、ノ、跡、ハ、一、般、人、ノ、或、ハ、未、ク、知、ル、者、
 此、處、十、三、年、我、中、前、大、元、帥、ノ、位、置、ヲ、以、テ、予、私、平、ノ、通、電、ヲ
 発、シ、テ、予、ヨリ、通、使、互、ニ、檢、査、シ、南、北、各、部、ヲ、圖、リ、日、ハ、ニ、結、核、等、ノ
 二、人、ハ、親、望、阻、撓、セ、リ、最、近、漢、州、東、五、縣、ヲ、逐、還、ス、ル、ヲ、肯、也、
 ヲ、シ、好、キ、其、一、例、ナ、リ

P.V.M. 51 6

高者車輪ハ学良也ニ其運送ヲ許シタルモ彼等兩人ハ中間
アリテ之ヲ阻ニ増シ之レヲ履行セシメテ為ナニ内外大士皆
其苦痛ヲ受ケ車輪ヲ廢置破壊セリ公故ハ損失大ナリ之
レ其ニ例ナリ
漢州東ノ一擲兵ハ時局ニ順應シ人心ヲ安定セシムヘキモ
十ニ揚南署議折シタルハ其ノ三例ナリ
以上三端ト学良再ニ婉曲高量トテ其ノ以テ之ヲ勸導
レ又命全ク以テセシモ彼等兩人ハ之ヲ行ケ内外人ヲシテ我
方ニ惡感ヲ抱カレテ其因^{（遠）}戰禍醸成魁ナリ其ノ原因
ハ和平破壊ノ首ナリ其ノ罪狀ヲ論スルニ故リ我東習ヲ

雲スルミナラス又之我年奉ヲ害ス。学良ハ夙夜泣意
活心ヲ奮ス私ニ我ヲ三前ヲ警示ノ毎キニ遣キ再ニ軍事
行動ヲトルミナリ工高ノ衆達ヲ謀リ内外居民ノ幸福ヲ
謀ルムコトヲ冀ス者カ御父考子弟ヲシテ毎居業業
也ニ必^レトテ其ノ耿々一誠天日ニ誓スヘシ然ルニ彼等兩
人ハ禍心ヲ包藏シ事ニ陰ニ破壊ヲ圖リ處々ニ力ヲ盡
シテ結集シ兵工廠及交通事業ヲ個人漁利ノ漸致ト爲シ特ニ
收入ヲ省庫ニ送リサレ^レミナラス且^レ省府ニ對シ巨額ノ
要求ヲ為シ其金額ヲ流用セル證據アリ己ニ現大洋
二億餘元ノ遠ス考管ノ許可ナキニ^レ都府取調ナキニ^レ

皆一手に執り私囊ヲ肥シ方給一親屬ヲ任用シ改措ヲ
其ノ探微ニ歸シ其間ヲ出シ者ヲ庇護シ私党ニテ
ハ權勢ヲ加フ至永江ノ權臣郭松館ノ激変迄ノ金融
ノ擾亂ノ戰事ノ延長等皆司馬忠壯ノ心踏人皆十見
シ吾カ東洋人ノ皆亦之ヲ知ル然レ世々或ハ未ダ
ヲ知ラザルハシ學長既ニ權臣ノ地位ヲ奪リ衷心
第一實類ヲ匡化シ共ニ軌道ニ順ハントシ同人等
年事ヲ共ニ老ク想ニ缺點ヲ究察シテ彼輩ヲ奸
險ナル帽ナリトモサリシニ近來更ニ党徒ヲ暗
國家ノ危險ニ迫リテ甚ク憂念此ニ至ルハ院痛ニ堪ハズ

學長同人等ト再回鑿リ右ノ名ヲ去ルニテサレハ東
ノ大局ハ運謀ノ理ナキニテサレハ同ノ理ナキナリ大
義滅親何ニテ之ヲ行フヤ
謂フク毒蛇發キ壯夫斷臂學長等ハ敢テ公館ニ遊
徒ラニ私情ヲ顧ムハカラザル為メ遂ニ十一日會議ヲ
召集シ根ニ名ノ列席ヲ敢テ衆目ノ前ニ於テ試問
セシ處己ニ首ヲ俯シ服罪シ明レ倚テ即時罪狀ヲ宣
布シ法ニ按テ執行セリ國家自ラ至極ナリ同人等
ノ控筆スル所ニテサレハ海内ノ明達内情ヲ洞察
サレハトテ其ノ下歩ニ莫クテ明カニテ其ノ電報下

機密第三号
 昭和四年一月十日
 在哈爾濱
 總領事 八木元八
 外務大臣男爵 田中義一殿
 楊子雲、常蔭槐、魏鏡、魏鏡、關天、一情報
 報告一件
 本月十日在奉天楊子雲、常蔭槐、魏鏡、魏鏡、關天、一情報
 任、日、以、禁、濱、江、通、尹、兼、哈、爾、濱、支、派、負、一、部、ト、于、同、日、午、後
 八、時、同、公、署、秘、書、中、常、館、藏、本、書、記、出、二、語、リ、日、以、復、別、紙
 一、通、リ、カ、五、右、ト、踏、切、相、之、接、近、二、踏、切、相、一、出、場、ヲ、有

MARUZEN P.V.M. 51 12

接字

張學良 張作相 萬福麟 張景惠 翟文選 劉尚清
 劉哲 莫德惠 王樹翰 沈鴻烈 湯玉麟 袁金鎧
 十一日印

MARUZEN P.V.M. 51 11

判ニ尋リ、トニ腐心ノ居ル榮通尹一談ナルニワキ或ハ地
相推譲、為メ多少用意ヲ加ヘラレカニモ、カトモ考ヘラ
ルル第、十ニモ其後奉天ヨリ歸来シタル地先機要人ニ於
テモ亦之ニ近キコトヲ語リ居リ、右方面ニ於テト右ノ本件
真相トシテ信セラルル所ナリ

本條寫送附先

在平公使

在奉天、吉林、上海各總領事

在長春、南京、青島、哈爾濱各領事

MARUZEN

P.V.M. 51 13

哈爾濱方面ニ傳入ルル楊守選、常蔭槐、魏統、孫相
十日書楊常蔭、打捕、年張學良ヲ總司令部ニ討下
緊急要務トシテ現東京督辦呂榮寰ハ東京鐵道ニ對スル
支那側支張遂行上不適者一人物ニ付之ニ替フルニ副官ヲ
以テ之日キコト其ハ、黑龍江省ハ省長王樹翰ヲ任命シ度
常ハ奉天ニテ交通委員會一要務ヲ行フコトト改シ度キコ
ト其ハ十日旨ヲ申知テ日リ之ニ對シテ省長ハ呂督辦ハ張修
薦ニヨリ自命ニ適任ト認メ居ル、次第ニテ兩所ノ支張ニカ
コトナカラ作相ト一回ノ相譲ニ遊リルコト無ク、今直々ニ
ヲ免シテ劉ヲ任命スルコト困難ナリ一應慎重討議

P.V.M. 51 14

一上決定シテハ如何尚第二ノ着想ハ大ナル困難ハ熟キモ是
亦吾人三人ニ於テ決定スルコトハ面白カラハレト後指
シテハニ揚、常爾人ハ星龍江有ク考ニ五ノ命スルコト
ハ何等困難生スルニ於テ又東支智辨ニ劉推ヲ
据エルコト面白カラストモハ陰謀親ク之ニ事リテモ
差支無ク作相ヲ加ヘ事ニ他ノ意見ヲモ御スルコト
ナリテ人若ク折角ノ苦心ト努力ノ程ハナク障ヲ来
シ延テ下ニ根本政策遂行ニ極ク逸スルコトナレバ
モ科リ難ク爲シ總司令ニ於テ兩派ノ苦心ト努力
ヲ認メ右支障ヲ免レシメトナラズトモ、

ルカ之ヲ認メテハ他ノ意見ヲ聞クノ要無ク
即時御許可御発令ナリテ致ルヘレト、臣等我意ヲ述
テ辭シ去ラヌ學長ノ何トカシテ決テ公議ニ採リ度
ト希望スルモ爾人ハ依然其態度ヲ改メ不命ヲ自署ヲ述
為ニ學長ハ己ニ無ク午後一時自筆命ヲ著ク親ク係リニ
シヨリ楊、常爾人辭シ去リ聞ク無ク呂榮震學長ヲ訪
スルモ存心ハ己ニ對シ己ニ無ク事情ナリ、又支智辨
ノ職ヲ劉推ニ譲ラレシト告ケ其他東支智辨ノ中
心トシテ種々ノ事情ヲ聞キ取リヨリ由、呂人是レ命ニ無
ク、ミトテ謹聽シ且ツ聞カレハ終ニ事情ヲ述ヘテ

解シ去リぬイテ然ル相承良ク納不素ハ午後二時半
ナリ
呂宋裏去リテ作相ノ素ハ先キ学良ハ揚、常ノ態度
ニ深ク怨ム腹アリ始リ怨ハ或ハ決心シ或ハ躊躇シ居
リタリト爾ニテ新ニ作相ノ新素来リカニ下始ニ
ナリ種々ノ困難ニ付テカ適者ナリ方法ノ無キモノ
ナト女七半程ノ自存ニハ心中ヲ難ルヲ得ん中堅人独
リ作相ナルニミトテ言葉憐レニ作相ヲ前ニシテ治中
ニ作相ノ態度ノ如何ナルオカカヲ試ミルニ第ニ揚
ト爲ナリ見テ作相ノ何等躊躇カハ必要ナシ速ニ彼等ヲ

腹令アリテ然ルハト答ヘ辭シ去リ茲ニ於テ学良ハ手
兵大右ニ内意ヲ告メ聞キ無ク揚、常兩人素ハハキニ
キ自存カ應接室ヨリ兩人ヲ誘ヒテ二階ニ去ルヲ傳ケ應
接室ニ入り先ヨリ四名ノ各ニ名宛ニテ一人ノ手ヲ押ヘテ人
ハ銃聲ノ遠クニ渡ルカニ標堅ク門ヲ閉ケ兩半ヲ押
ヘテレツツアハ揚、常兩人ヲ射撃ニ射サト命シ四
時半頃学良ハ揚、常ニ来ルハキヲ傳ヘタリ兩人
ハ程無ク相違イテ参集應接室ニ案内サレタリ揚
常、兩人ノ往者ハ平素ノ如ク遠ク庭ヲ隔テテ
往者ノ控所ニ留ルニ学良無間應接室ニ入り對

生不揚、常雨人字良、血相常ナラサルニ氣付キ何事ナ
リ日ハナリテ為示日ニ為良ハ臣宗家今迄迄ニナリテ
我意ニ違ヒ不都合ナル言辭ヲ常ニ流レ日リ我ニ常態ヲ
失レテ之ヲ責メ激スルコトノ異常ナリ為ニ今雨未氣石
恒信ニスト答ヘ為未氣精シト為ニ麻痺ニナレト雨
所ヲ振テ日ハ次第ナリト言イテ室ヲ出テ二階ニ去ル所
人ハ常ニヤル如ク字良ノ二階行キハ阿片ヲ一服トシ
解ト解ト何氣 無ク暫ク待テ居リ日ハ二階ヲ
内意ヲ察ナラレ日ハ女名ノ在ハテ下リ四名ノ先ツ横
常雨人ノ手ヲ捕ヘ獲リ之名ハ逸早ク門ヲ閉ジ閉

8

MARUZEN II P.V.M. 51 19

レテ雨手ヲ引抜ケテレ照キテウツル兩人ニ對シ亂射ニ違ヒ
銃控ノ命ヲ空ラシテ二階ニ在リ日ハ字良ニ之ヲ報告ス
字良直中ニ他相ニ急遽来ルヘキヲ傳ヘ他相来ルニヤ銃控
日ハ旨ヲ語ル他相驚愕シ啞然ナリ自分ノ申シ日ハ處死ト
左様ナラシメテサレヨトノ意ニ非ナリレカ今ハ如何トモ致レ
難シ直中ニ因テ起ル彼等一味ノ復讐ニ對シテ一掃ニ就
テ嚴重ノ措置ノ要アリト直中ニ張景惠、呂宗家ヲ招キ
四人相協議スル處ナリ死体ハ翌朝ニテ其終應務至ニ
檢テ置キ日ハ元末揚、常雨人ハ字良ノ世トナリテ
相親シキ事ニ為テ中心精力ヲ把持スヘク今ヤ年暮

9

P.V.M. 51 20

昭和四年十月十七日
陸軍大臣 陸軍省

第四、楊守經及常蔭槐處刑事件
東北邊防軍司令官張學良ハ一月十日楊守經
及常蔭槐ノ兩人ヲ統帥ノ刑ニ處スル所アリ且
刑側ノ榮典ニ格ノ右ノ楊守經ハ本邦ノ和平統
治ノ一態度ニ知テ最近ハ各方面ト聯絡シ身
斷ヲ事トシ常ニ督ノ此面ト國家ノ統一トヲ妙
ルニ因リト稱スレトモ本邦ノ真因及影響者ト
シテ明瞭ナラズ然レトモ楊守經力ヲ奉天派ノ
勢力者ヨリノ事案ニ鑑ミ此ノ裏面ニハ相當
難也ノ事情アリヤニ察セテ免本邦力者ニ

MARUZEN P.V.M. 51 22

信ノ推テ自叙ノ必要人ニ占領セシヨ楊守經ノ
松ノ楊守經ノ對面ヲ迎テシテフツルニ後元ノ對
カサレシテ同廠隊員ノ縮少ヲ肯共帝ノ高
物ヲ關係ノ報告ヲ担任スルミテ楊守經ノ
進ニテ學費經由請求ニ對シ拒絶ニ來リ日
日ノニ廣大シテ止ム屬ヲ知ラズ今ニテ之
ニ社ノニ根等ノ禁ノ學費、任相ヲ壓倒シテ
天下ヲ掌握スルニ至ルニ然ルニテモ無キ
上ニ考ヘラレバ本邦統帥シテト干其ノ
9月次第ナリ云々 以上

MARUZEN P.V.M. 51 21

帝ノ政情ニ相違激動ヲ興ヘ居ルコトト想像ニ難ク
 此所ニ于テ從テ斯ル際ニ來テ南方ノ聲浪又ハ強ク
 良ノ南方接近等ニ依リ一層南方勢力ヲ著クシテ
 潤クシテ人心ヲ動搖セシメテ若シテ同地方ノ治安
 序ヲ亂カスヤ如キコトナキハ殊ニ依テ帝國政府
 在事夫帝國總領事ヲシテ強ク對テ帝國政府
 從來ノ同情的態度ハ今日ト雖モ尙モ更ニ付
 學長ニ於テ之充分ニ之ヲ諒解シ固ニ決心ヲ以テ此ノ難
 局ニ善處スル中旨ヲ傳テテ激勵セシメタルカ張學長
 之ニ對シテ是等ニ於テ日友ノ關係ニ付テハ特ニ喜
 德ニ日本政府好意ニ背カサルヲ期シウツル旨ヲ答ヘ日
 越
 十二

P.V.M. 51 23

公第五四号
 昭和四年一月十八日
 在事
 總領事 林久治郎
 外務大臣 田中義一殿
 楊、常犯刑ニ關スル高等軍法官審判決書
 譯送一件
 楊、常犯刑ニ關スル高等軍法官審判決書
 等軍法官審判決書別紙一通リ及地勢圖ニ裝表アリ
 以テ別紙一通リ及ニ譯送ス

P.V.M. 51 24

東三省保安現司令部高等軍法官審判決書

判決

被告人 楊宇霆、常蔭槐

事實

前東三省兵工廠督辦楊宇霆、前黑龍江省省長常蔭槐、身二重任、受命于前、常之克、結、其、奸、ヲ為之政府顛覆、意圖ヲ有シ公然命令ニ反抗シ、操縱把持シ三省一切ノ政務之ヲ牽制シ、受命于何等進行スル所ナシ、民國十三年末、屢次ノ戰禍ハ被告人等ヨリ恣意傳弄セ、ニ因リ大元帥陸軍ヲ以テ休戰和平ヲ提倡シ、通使

P.V.M. 51 25

往來シ南北協治ノ場合ニ於テ被告人ハ陽ニ觀望シ陰ニ阻撓セリ、近リハ瀋陽東五路ノ運送ヲ省セ、カ如キ又京奉車輛ニ付テハ路總司令部ノ商議ハ上達運ヲ許セシモ、只被告人等ハ中ニ在リテ、整理ニ乏シテ運送セ、其、私、車、甲、ヲ、再、ニ、戰、禍、ニ、ヨ、リ、全、國、ヲ、擾、亂、シ、外、人、ヲ、シ、其、痛、苦、ヲ、受、ケ、シ、ト、シ、モ、一、ニ、シ、テ、車、輛、ヲ、廢、置、破、壞、セ、ル、公、私、ニ、甚、大、ノ、損、失、ヲ、喫、ハ、リ、其、一、瀋、陽、東、五、路、ノ、運、送、ノ、任、務、ハ、大、心、ヲ、要、ス、ル、モ、一、方、ニ、被、告、人、等、ト、シ、テ、國、策、ヲ、撓、セ、リ、子、報、告、ニ、依、リ、被、告、人、等、ハ、其、危、危、ヲ、預、

P.V.M. 51 26

3. 南北同結ニ奉勅セシトシテ
 全干糧ハ軍一途給及支給
 補給ヲ擔任シ常々黒龍江沿岸ヲ據
 守テ交通機關ノ收テ
 柳留ニ失意軍人ヲ糾集セシトシテ
 獨逸及フランス
 其機關ニ巨額ノ金ヲ貯リテ
 如此彼等ハ過去ニ於テハ
 戦禍醸成ノ魁ニシテ現在ニ於テハ
 和平破壊ノ首トシテ其ノ
 罪狀ヲ論スルニ於テ物東北沿岸ヲ
 當スルニシテ其ノ
 國家ニ及ラズ又該被告等ハ兵ヲ
 解任シ交通事業ヲ個
 人ノ漁利ノ淵藪トシテ其ノ收
 入ヲ貯蓄シテ其ノ貯蓄ニ於テハ
 此ノ如ク却テ有庫ニ對シテ巨額
 ノ要求又其金銭
 流用ニ就キテ證據ヲ示シテ其
 現洋ニ使余元ニ當

七ノ被告一計百十中一被告
 林朝十キモ一ノ全部私囊
 ニ納メ其ノ親屬ヲ任用シ政府
 ニ其ノ探偵ニ請セリ其ノ
 下ニ出ワル者ヲ庇護シ私囊
 二アツキモ一ハ之ヲ擁護
 不王永江ノ擁護 郭松齡ノ
 擁護 如中近ノハ金融ノ擁護
 戰事ニ進出シ如キハ皆被告
 人等ニ於テ禍心ヲ萌ル
 ヲルニモ一十以上被告
 人等ノ羅網ヲ綜合スルニ
 已テ取網
 一上被告十ノ乃々^{本月}十一月
 重要會議ヲ召集シ其
 被告人等ノ刑罰ヲ求メ
 衆目ノ前ニ於テ其ノ取網
 質問セシメ該被告等ハ已
 二首ヲ俯シ服罪セリ又
 被告一人等ノ名簿ヲ提出
 せんニ付 武器彈藥等ヲ

藏之居り乃4階時高等軍出令歸ヲ組織之法ニ依
リ罪狀ヲ宣告ス

理由

前記ノ事實及偵査ニ依リ揚子江、常陸橋ハ党派
暗結、内乱ノ~~主~~謀共産党ト勾結、國府ノ顛覆、和
議ノ阻止、庶民ノ抱括、公金横領、濫職ノ行為ナル
ヲ明カニシテ是等ノ各行為ハ新刑法第一〇一條第一
項ノ内乱罪及修正陸軍刑事條例第二十七條第一
七項ノ叛乱罪ヲ構成シ、余罪ノ情ニ輕重ニ別テ
執行スルニ~~ハ~~他刑ヲ執行セズトノ規定ニ依リ其重

科ラ免シ茲ニ判決スルニト立文ノ如シ

刑事

新刑律第一〇一條以府廳縣ノ意圖ヲ有シ土地ヲ冒
竊シ~~ハ~~其~~他~~國憲ヲ紊ルルノ案動ヲ起ス者ハ内乱罪
トス左記ノ通り處断ス首魁ハ死刑或ハ無期徒刑
刑トス修正陸軍刑事條例第二十七條第七項、
外子人ト結託シ抄府廳縣ノ意圖ヲ有シ或ハ共産
ヲ策動シ兩シテ衆ヲ集メ公法ヲ擾害スル者ハ死刑
ニ處ス

立文

楊守愚 著 蔣經國 著 蔣經國 著 蔣經國 著
 以行為上應之各刑之廢止ハシ

臨時國防軍法會議

審判官 第三省保安總司令部 張學良

審判官 吉林省保安司令部 張作相

同 第三省保安總司令部軍事廳長 榮臻

同 東北陸軍步兵第一旅長 王以哲

軍法官 第三省保安總司令部軍法處長 顏文海

檢察官 奉天省警務處長 高紀毅

P.V.M. 51 31

第三省軍法正

中華民國十七年一月十一日

王之豐

P.V.M. 51 32

機密公第 五九号

昭和四年一月廿九日

昭和四年一月九日

林久治郎

外務大臣 田中義一殿

蒙古全境ノ損害ノ事ハ如何ニシテ其ノ要領

報告ノ件

過般突突ニ揚子江ニ沿テ常ニ掃蕩ノ事ニ關シテ
地方野防隊界ノ者宿蒙
七ノ要領左記ノ通りニ處本件ハ本月十日付公第四
四号機密報告孫傳芳總司令對照ノ少本件ノ
真相ヲ知ル考考ト見料セヨ
右ハ参考者迄報告ス

P.V.M. 51

33

揚子江射撃隊ノ件

今月午在江揚子江ニ常ニ掃蕩ノ事ニ關シテ其ノ真相ヲ
確ルニ為テ蒙全境ノ事ハ如何ニシテ其ノ要領ノ
余ハ今朝漸ク事ハ如何ニシテ其ノ要領ノ事ハ如何ニシテ其ノ要領ノ
ハ如何ニシテ其ノ要領ノ事ハ如何ニシテ其ノ要領ノ事ハ如何ニシテ其ノ要領ノ
者ヲ射撃シテ其ノ要領ノ事ハ如何ニシテ其ノ要領ノ事ハ如何ニシテ其ノ要領ノ
スルト云フナ地ノ事ハ如何ニシテ其ノ要領ノ事ハ如何ニシテ其ノ要領ノ
輯ナク其ノ要領ノ事ハ如何ニシテ其ノ要領ノ事ハ如何ニシテ其ノ要領ノ
ノ天敵ノ軍隊モ亦之ノ網引テ捕リ小西門外ニ在ル事
登送ノ事ハ如何ニシテ其ノ要領ノ事ハ如何ニシテ其ノ要領ノ

P.V.M. 51

34

不繼司各都之馳付々々字長之函合レハ字長ハ京ニ對シ此事
件ニ對シテ君ハ何ト考エルカト問ハレカカテ自分ハ事此ニ
至リテハ何トモ云フ言葉ヲ知ラナイ余リニ道方ハ辛辣真
ナリカト言ハル所カ字長ハ外ニ取ルハ中半段カトカワリカ
テアト答ヘリ余ハ揚ニシテ君ハ命ニ限シナイナリナリ
リ免職シ君ハ万一不都合カアリトスレハ直轄ニ附シテ
差支ナイテハナイカト答ハル所カ自分ナリ何ニ云フナリ
聞レテノミナリナリ免職スルトレテ王出東ナリ孫ハ
テ免職スルハ必ず反逆ラ圖ルニ違ナイト答ヘリ余ハ
此ニ於テ反逆ラ圖ル志レカアトスレハ自分トレテハ別

3

ニ云フコトハナイ、然レモ揚中選カ今日一知年結果
ヲ見ルニ至リテハ民國七年條約締結シテ滿國璋カ
買入レリ武器ヲ東亞自島ニ於テ奪取レリニ甚因スル、尚
揚中ハ揚中選比ノ秘書長アワリ日為ニ極力之ヲ諒止シ
日中揚中選トシテ第一言ニ耳ヲ藉ナリミナリニ遂ニ之
ヲ決行スルニ至リテ、果セシカテ第一第二次に於テ
ハ内輪ノ戦争カ起リテ要スルニ此等戦争ノ種子ヲ播イ
ハ其ノ武器ヲ争ニテレリカテアハ之カ原因ヲ揚中選
ク作爲ニ遠ナカワテ北京西山ニ流浪シテトカハ、最近
ニ至リ揚中選ヲ設テ兵工廠ヲ設テ今日迄約二億万

4

内一省金を下して居る之が爲に民力ハ日々に疲弊シ
戦争ノ年々絶エズ相尋一味ノ之に依テ私腹ヲ肥シテア
ル、大元朝禮札往來ノ幾度モ兵工廠一掃盡部滅ヲ
支海シテカ揚人ノ之ヲ承知シナイノミナラズ金々積累ヲ
極メテ、要スルニ至リテ因ハ揚力極多ニ兵工廠ヲ拮据
シ拮据地集ラシテ堅心ヲ抱カシムルニ至リテト地日狭
カシテ羽翼成レトシテ之ヲ支テ逆ニスルニトハ明瞭ナ
ラト云フニ學校カ氣付イテ断平日ハ廢置ヲ取リ付
ノト信スル、歴史ヲ探蹟イテ見ルニ過渡時代ニハ権力
ヲ有スルモノカ傍觀ヲ蒙ルルカ多ク自存爲如ク文治

以テハノニ十端ニ去就カ極メテ簡單且容易ナリ「左則
經不右則去」ト云フカ標十事ヲ消シカ権力ヲ有スル者ト
動カスレト堅心ニ馳ラシテ事件ヲ惹起スル事莫ク是レカ
ヲ子カラナク、本日孫傳芳、張景惠、張作相、湯玉
麟、沈鴻烈、劉南濤等ト善相廢置ヲ擬議シカカ先
角今在中ニ通電ヲ発シテ統制ノ原因ヲ購カスルニト
スレバ輕ナル理由ト再々軍行動ヲ起サズトシテ實業
ノ發達ヲ圖リテ第三者ヲ安定シ人氏ヲシテ各業ノ榮
ニナ標トスルニ對シ事々之カ破壞ヲ企テ兵工廠ト銀
通トヲ以テ私腹ヲ肥ヤズ根本トシ收テテ商庫ニ納メ

ノミチ巨額ヲ強要 秘党外ノ一ハ之ヲ排斥セシム
ナシ、五永江ノ擁護、東部松嶺ノ叛乱、金融ノ擾乱、
戦争ノ延宕、皆皆性劣ノ罪ヲアツカ近ク、専任党ヲ結
後、今更ニ前ノトシテ居ル一ト云フニ在ル。近年ノ戦争ニ
執テ今日迄、政府トシテ居ルハ、揚子江ト王水江ト二
人ヲアツカ、王ハ財政的ニハ手腕カワリ、人民トシテハ
王カ軍費ヲ貢イリト云フ事ニ依テ非常ニ不満ヲ抱キ、五
對テ千萬民然(王岷源)ト云フ傳名迄附スルニ至リ、自
存トシテ王水江ヲ擁護シ、關係ヲ其一味ニ敷ヘテ、
甚迷惑ヲ蒙リ、事カワリ、幸ニシテ王ハ大元帥ニ部

出テ居ルニシテ、山ニ起臥スルニ至リ、日為始、ト人民ニ
一、莫意ヲ知リ、名譽ノ回復カ未カ、次第ヲアツ
常陸、揚子江トシテ、其態度極優不遜、右方面ト莫意ヲ疎
ヲ欲キ且、往テ之ヲ和党ヲ集メ、各鉄道ヲ斷断シ、其收入
ハ悉ク之ヲ押ヘ、總司令部ニ對シテ一文ニ支射セ、カワリ
而已ナリ、又、諸種ノ事件ニ對シ、總司令部ノ命令ニ服従シ、ナシ、
カワリ、日ニ之ヲ為シ、揚子江ノ倒スルニ於テ、一、執見カ、ル
カ、カ、置リ、トト却テ、禍根ヲ種々、ト、ア、カ、同、情、ニ、
ヲ、統、制、シ、日、一、ア、ツ、
其他、兵、工廠、製作、一、者、ニ、テ、前、材、料、産、長、強、固、同、合、辦

前之辭者、奉使館向、願、振、若、ハ、警、察、廳、ハ、中、可、選、捕、レ、
査、辨、ニ、附、ス、レ、ト、ニ、十、七、日、中、午、之、カ、為、至、工、廠、内、ニ、有、サ、勤、換、
ニ、中、午、午、レ、ト、モ、事、件、ヲ、曝、ス、ト、ハ、信、セ、ラ、レ、ス、揚、東、學、校、ニ、
干、眞、面目、ニ、改、治、ヲ、敷、リ、来、ニ、者、ハ、人、民、ヲ、レ、干、各、其、業、ヲ、業、ニ、
シ、ル、ト、ト、ヲ、傷、ハ、今、日、就、教、サ、レ、カ、揚、東、一、二、人、ニ、對、シ、テ、
ニ、譯、カ、立、リ、次、第、ヲ、示、ル、云、々、

P.V.M. 51 41

機密伝第(六)号
昭和四年一月二十九日
林 久 印
外務大臣 田中義一 殿
揚、東、學、校、ハ、新、米、ト、其、影、響、

本件ニ關シテハ、其、影、響、電、報、五、分、後、ヲ、以、テ、断、片、的、ニ、報、告、シ、置、
キ、カ、レ、處、其、前、任、ノ、事、情、及、影、響、等、一、概、判、断、シ、通、信、村、副、頭、
事、ヲ、レ、干、取、柄、ハ、レ、ト、カ、レ、ル、也、右、如、查、照、ヲ、明、確、請、フ、

P.V.M. 51 42

揚字庭及常落概ノ覆刑類末ト其新響
一揚常覆刑前後ノ事情
揚字庭ト一月十日午後七時頃覆刑場ト揚字庭ニ對シテ通
問題ニ就テ御尋ノリケル常落概ニ末合出居ルニ依リ
至急總司令部ニ報告セヨトノ通知ヲ付シタル為メ
揚字庭ト何者モハ介スル様子ニ見入ル軍身總司令部
ニ出頭シ在場ニ在リテ歸宅セシ十一月午前二時頃ニ至リ
私服軍裝ト揚字庭居定ラレテ圍ニ墮テ其ノ前開門
ヲ拒ル外部トトテ交通ヲ遮断セルニ依リ家人等ニ始メテ

字庭ト身邊ニ危害加ハレトテ殊感シ概ト字庭ト際
傍若若ニテ十一月早朝揚字庭ヲ訪問セルハ前開
附近ニ至リ軍裝一警戒ヲ見テ其場ヨリ脱向セルニ至リ
リニ趣キテ
右ト揚字庭側ヨリ情報ニシテ常落概側ノ情報ハ
末ト之ヲ聞知セルモノトテ本層地而總司令部側ノ情
報ヲ檢査スルニ揚字庭ト常落概ト兩方
ヲ總司令部ニ報告シ總司令部階下大庭檢査ニ
於テ合見申揚字庭ト注射ヲ行フト概ト室内ヲ
檢査スルニ是ヨリ右揚字庭側ノ脱向有テ專辦

揚字庭及常落概ノ覆刑類末ト其新響
一揚常覆刑前後ノ事情
揚字庭ト一月十日午後七時頃覆刑場ト揚字庭ニ對シテ通
問題ニ就テ御尋ノリケル常落概ニ末合出居ルニ依リ
至急總司令部ニ報告セヨトノ通知ヲ付シタル為メ
揚字庭ト何者モハ介スル様子ニ見入ル軍身總司令部
ニ出頭シ在場ニ在リテ歸宅セシ十一月午前二時頃ニ至リ
私服軍裝ト揚字庭居定ラレテ圍ニ墮テ其ノ前開門
ヲ拒ル外部トトテ交通ヲ遮断セルニ依リ家人等ニ始メテ

此名ヲ年ニ揚常兩名生。席一應接室ニ隣入ニ即時兩
名ヲ捕ヘテ頭部ニリ拳銃ヲ擲シテ之ヲ射殺シ其屍
体ハ毛布包トシテ最初之ヲ小南門外ニ擲ル。翌十一日
午前中揚常全體常陸橋兩名一家人ニ對シテ体支離テ前
知シタルモノナリト云フ
銃上總司令官部側一消息ニ依レハ揚常兩名一總司令官部ニ
知頭七ハ十日午後十時ニシテ揚常全體家人側一消息ニ
依リ長ク揚常全體ヲ招致セルトナリ午後七時トナリ其間不
意合ニ點子揚常全體側一消息ハ其家人一斷言ニ據
リ其ニ干預運来ニト認メテ又實他ノ方面ヨリ

4

MARUZEN II P.V.M. 51 45

情報ヲ採取スルニ現司令官部消息ハ其ニシテ前後事情ヲ
論飾セルモノナリナリナリ旁其邊ニ強カク居テ
此次第ナリナリ正式発表ニハ揚常一射殺ハ十一日午前二
時ナリト稱シ射殺時刻一實際ハ今猶未詳ナリ
揚常一應合ハ其子良一強斷行ナリトナリ本人平素性向
ヨリ見テ其ニ干預間ナリ揚常一強斷行ハ自ラ事件信
始ナリト之ヲ聞知セルニテ吹塵ニ居ルニ其後總司令官部内
ニハ張作相、張景惠、湯玉麟、孫傳芳、沈鴻烈、孫傳芳
選、劉有清、七名候補者ノ居リ消息ナリ内孫傳芳、
沈鴻烈、劉有清、劉有清等ノ参加ニハ其説ナリト云

5

MARUZEN II P.V.M. 51 46

張作相、張景惠、湯玉麟、之如、多集、居、ハ、諸般、
 情報、其、事、實、之、存、在、之、子、孫、傳、考、ハ、其、
 際、之、在、ハ、拘、テ、事、件、任、上、之、担、当、者、在、リ、テ、清、
 野、之、河、原、等、之、對、シ、テ、進、ミ、テ、日、本、親、善、論、ヲ、
 唱、ヘ、テ、外、露、之、應、接、也、事、情、ヲ、見、テ、全、然、内、外、者、ナ、リ、ト、
 ハ、首、肯、シ、得、テ、ハ、處、ナ、リ、
 一、楊、宇、選、帝、蔭、謀、案、之、理、由、
 跨、學、長、ハ、一、月、十、一、日、楊、常、南、在、ハ、私、心、ヲ、包、知、シ、明、免、ヲ、結、シ、
 一、切、一、改、張、ヲ、制、肘、セ、リ、ト、シ、テ、跨、作、案、知、平、提、唱、一、任、電、
 漢、州、以、來、五、珠、一、撤、兵、車、輛、一、送、還、案、之、反、對、也、事、例、ヲ、

學、々、々、五、永、江、一、排、行、郭、板、館、背、反、金、融、紊、亂、反、兵、解、
 一、松、点、交、通、機、關、一、監、斷、等、皆、十、兩、人、ノ、醜、成、也、ニ、ナ、リ、
 一、國民、政、府、其、他、各、方、面、之、通、電、之、居、ル、處、在、通、電、二、等、
 一、々、之、罪、跡、ト、數、レ、モ、抽、象、的、ト、モ、シ、ン、テ、何、等、事、案、ヲ、指、
 一、摘、也、ニ、シ、テ、ハ、見、エ、テ、任、令、兩、人、ニ、其、刑、等、事、項、之、反、
 一、對、一、言、動、ヤ、リ、リ、リ、ト、ス、ル、也、其、一、取、捨、ハ、跨、作、案、子、孫、
 一、學、長、等、ノ、責、任、之、シ、テ、任、務、兩、人、ノ、責、任、ノ、シ、テ、歸、ス、可、キ、
 一、ニ、シ、テ、ナ、ク、シ、テ、任、務、之、ヲ、以、テ、直、ニ、有、同、處、刑、一、處、務、
 一、及、因、ト、テ、上、ノ、聊、カ、失、者、ハ、見、テ、不、及、本、月、十、日、當、地、
 一、新、聞、之、報、表、也、一、月、十、日、附、楊、常、南、在、處、刑、一、判、決、

書ニテ前報通電ノ意味ニ加ヘ共産党首魁共(本報ハ)
誤認ニハ法精衛ト指示セリト同誌ニ本年三月一中共代
表大會ヲ期シ南北榮勳ト揚子盡ト奉軍一連統、兵器
ノ補充ヲ擔任シ奉陸軍ハ黑龍江省軍ヲ收攬シ交通部
ノ資金ヲ融通シテ矢張り軍人ヲ利用シ独ニ佛蘭西
等ニ巨額ノ資金ヲ送付セヨ若輩平破壞ノ陰謀ヲ在
テ居ル者各ヨリ被告兩名亦其事ヲ認テ服罪セヨ旨
ヲ記載シ居ル處ニ本報亦極大ニ賛然日ハ抑蔽的ノ
モノナリヲ前報軍法會議關係ノ事實ヲ全然虛
構トセリトハトハ兩名射殺者始ノ情況ヲ見テ

全然疑ナク屬シテテ恐ラキハ其時經テ軍事ヲ拘メ國民
府正武任命ニ保ル黑龍江省政府主席呂崇蔭宛
綏國民政一部ニ同情者ヲ有スル揚子盡ヲ正者トシテ
續ニ依リ處分カサリテ責任回避ノ方便トシテ事後ニ作成
セムトテ親ナリテ該通電各判決書ナルモノノ内容ト
直接今同ノ覆判ノ理由トシテ人極大ニ揚子盡トシテ
之ヲ誇示良ノ性向ト同人力是迄一對揚子盡者ノ關
係者ニ對シテ時ハ其處分ノ原因ト他ニ存スルト想像ニ難
カラス強作意ハ貫在兩揚子盡ト才智ヲ操リテ之ヲ愚考
議ニ化シ且ソ兵工廠精製トシテ之ヲ重用シ直捷軍權

附子にサリレモ 陸軍省第一第三四方 西軍に對シテ 陸軍
省に補任シ其指揮を勤メ 當リテ 居ルハ 以テ 東
三省に軍民兩政共ニ 治メト 揚子江に關係セラルモ 一十カ
リシヲ 以テ 一國其身を推シ 恐メテ 疾視スルモ 一抄ニ 示サリ
レモ 亦他國其界息ヲ 藉ヒテ 之ニ 迎合シ 或ハ 格勢ヲ 恣ニ
ルモ 一類ニ 多數ニ 達シ 居ルハ 其地を死シ 陸軍省に 親
ニ 奉ニ 揚子江に 總司令ニ 任セラルモ 其地他國 亦 東三省に 軍民
兩政に 直屬 若シ 亦 陸軍省に 恩顧ヲ 受ケルモ 一ノ 一ノ
ルト 其國 國民 竟ニ 座進ニ 對スル 恐怖心ヨリ 衆望ニ 致シ 總
論ニ 在ルモ 一ノ 一ノ 陸軍省に 奉ニ 二十ノ 才ノ

青年ニ 遇メ 夫 天賦ノ 俊敏 視明ナキニ 非サレ 其 素養
ト 陸軍ニ 歸テ 阿片中毒ニ 因リ 半病体ノ 人物ニ 至リ 劉座
東三省に 軍民兩政ヲ 綜攬スルハ 同 論 爲 難 軍隊に 指揮
統御ヲ ナシ 揚子江に 備フルモ 一ニ 拒メ 陸軍省に 奉
一 保 有セ 其 實力ハ 自然ニ 分散スルハ 劉座 免レ 其
情 怨ニ 陷レリ 而シテ 陸軍省に 其 強 勢ニ 於テ 揚子江
ト 往來ノ 險 係ニ 藉リ 公私共ニ 其 功 益ヲ 求メ 陸軍省 七月
恩寵 江省ヲ 一 更ニ 際シ 陸軍省に 最初 招クニ 之 程
岸に 豫定ナリシニ 揚子江に 常陸 橋ノ 人物ヲ 推選シテ
遂ニ 常陸 橋ノ 使命ヲ 見ルハ 如キ 事 遂ニ 常陸 橋

ハ就任以先同省ノ警備隊ニ十管約ニ万ニ達スル軍隊ヲ
其經費ヨリ省政府ノ支給ニ依リテ口實トシテ白ク其指揮
權ヲ掌持シテ同省ノ軍政片断ヨリ萬福麟ノ干渉ヲ排シ
又第三省長選委員會副委員トシテ京奉、青海、
四洮、沈昂等ノ各鉄道及電信電報、電燈等交通口信
機關ヲ監督シ各義隊ノ各機關ニ其部下ヲ配置
シ最近ニ於テハ一般郵政ニモ其ノ監督權ヲ伸張シ在リ
ル等其實力ノ極大ヲ極大トシテ其電報各ノ跨
字長ヲ未嘗ニ對スル該該中學校ハ留テ黑龍江
省ノ軍機ヲ揚テ其要ニ委シ同人ト常務總務ト共ニ同

P.V.M. 51 53

省ノ軍民兩政權ヲ掌持スヘキヲ説キカハルニ拘ラス字長ハ
全熱朝鮮ノ希望ヲト云ヒ之ヲ排退スルニトアリト云ヒカ如
キ字長ハ如何ニ揚テ其權ヲ伸張シテ其常務總務ノ黑龍江省ニ
於テハ專斷ノ身カリシヲ觀知スルニ是レモアリ
尙本省大兵工廠ノ該字長ハ聲明ニ依リテハ該二使余田
ノ資金ヲ揚シ居リト稱ス勿論其資金ハ一般總務ト
既設武器製造工場ニモハ大都府中ハハ先ニ同省長ニ
省長ノ武器製造工場ニシテ同廠ノ幹部ハ全部總務
字長ノ親近者等ノ一派ヲ以テ之ヲ占メ給ト揚テ其要ニ
私有利権ニ寄リテ其要ニ日ルニ之ヲ字長執

P.V.M. 51 54

権後下雖も一掃ヲ染ト得ナリレモ一ナリ
前頭ノ如ク揚子江ニテ強権在也中ニ有難也ハ勢力ハ
強学良ノ執権ハ何ニ於テハ何劣矣陸軍ニモ一ナリミナ
ヲ大其推挙ニ係ル常務権ト一統在ノ更勢力ト強権
一北七ニ依リ右執ノ傾向ヲ世ニ以テ之者ノ軍民兩政界ニ
一頭地ヲ持テ親ナリ斯ク揚子江ニ表面軍ニ兵工廠
一督辦ノ地位ヲ執守レテ其兩黨ヲ強ク右方商ニ軍
力ヲ把持スル一方ニハ強学良ノ執権ハ一東ニ有重要政
務ノ協議極限ハハ保多委員等責任ノ地位ニハ殊ニ
其参加ヲ強ク今次此強権ノ強固ニモ其委員ハル

14

MARUZEN II P.V.M. 51 55

断リハハ消息下ノ世人此階ノ消息ハ以テ強学良ノ下風ニ
立ツラ性ト也又親ノ其監督者ノ權限ヲ保ツニト評
レ又学良ノ失職ノ責任ヲ今日下親ヲ之ニ代ル用者ナリ
ト断定セルトハ必ズ之ニ強評ニ非ナリレカ如シ
事情短上ノ通ニテ強学良在也中ニ有重要ノ意見
衝突感情ノ齟齬ナリハハ強作胡ノ強学良ノ湯玉麟等
一軍閥乃袁左凱等文治派カ揚子江ニ貫一派ノ強権ニ
不満ヲ増考セルト自然ノ成行ナリレモ強学良本人カ
ニ揚子江ニ貫一派ノ強権ニ其力ト決心ヲ強中ノ日ハ
リテ在再訪白ノ經過セルト事情前述ノ一般趨勢

15

MARUZEN II P.V.M. 51 56

二、予、張學良、楊學愈、及其一、此、例、中、レ、ト、張、學、良、の、揚、
 子、愈、一、境、志、ト、レ、テ、僅、ニ、其、虚、位、ヲ、推、ス、ル、ニ、甘、ス、ル、事、
 其、地、位、ヲ、揚、子、愈、ニ、屬、ス、ル、事、ノ、歸、宿、ヲ、見、セ、ト、止、テ、予、
 以、所、勢、ヲ、述、リ、居、リ、テ、
 第三者、ニ、於、テ、下、日、本、一、推、進、推、進、ノ、正、者、一、理、解、ヲ、有、セ、
 尤、ハ、為、政、者、ノ、其、位、置、ヲ、正、ス、ル、ト、困、難、ナル、ト、其、局、
 二、前、レ、モ、一、均、シ、ク、認、識、ス、ル、後、ニ、予、揚、子、愈、ト、素、多、リ、
 然、學、良、ト、雖、モ、或、然、度、ニ、之、ヲ、承、知、シ、居、ル、答、云、
 後、南、方、國、民、政、府、ノ、實、礎、ト、亦、漸、次、貴、ノ、緒、ヲ、就、
 中、南、方、政、府、ヲ、支、配、魯、國、推、向、修、政、ヲ、支、那、鬼、

漸、ハ、大、勢、ト、シ、テ、張、學、良、之、者、青、年、志、士、法、國、留、學、生、ト、居、ル、ト、見、
 送、ス、ヘ、カ、ヲ、サ、ル、事、事、々、シ、テ、此、愛、情、ト、思、想、上、ノ、矛、盾、ハ、強、
 ヨ、リ、漸、次、東、三、省、ノ、政、界、ニ、互、約、シ、張、學、良、カ、日、本、側、ヲ、諒、解、
 傷、ト、シ、テ、ハ、揚、子、愈、一、派、ト、國、民、黨、側、ノ、國、權、向、後、熱、心、
 リ、テ、之、ヲ、制、肘、セ、ト、欲、シ、カ、レ、嫌、ヲ、昨、年、入、夏、
 奉、天、柳、子、正、潤、ノ、大、義、ヲ、張、學、良、ヲ、推、進、シ、揚、子、愈、ニ、對、
 シ、テ、ハ、一、顧、シ、テ、笑、ヘ、サ、ル、ノ、態、度、ヲ、採、リ、日、々、張、學、良、ニ、對、
 シ、テ、ハ、非、常、ニ、強、味、ヲ、加、ヘ、日、々、一、如、ク、今、何、揚、子、愈、等、
 解決、後、本、官、カ、張、學、良、ニ、會、見、シ、際、日、本、ノ、張、學、良、ニ、對、
 ス、ル、態、度、不、善、ヲ、該、中、林、野、野、ノ、張、學、良、ノ、態、度、ヲ、想、起、

七井下々五問也。勝在學長。今更一。林男舞。高
見。教。胸。心。り。上。云。水。常。三。感。慨。無。量。事。情。マ。リ。レ。二
微。レ。程。ハ。ト。考。揚。平。整。カ。者。結。マ。失。望。二。沈。三。陰。三。青
蔭。槐。等。マ。通。レ。滿。敏。交。海。中。一。能。通。問。題。二。反。對。一。能
厚。マ。採。マ。レ。ト。他。日。自。人。樹。二。對。レ。テ。一。能。通。問。題。解
決。一。能。進。ハ。張。原。良。二。決。心。本。二。固。ル。マ。以。テ。自。命。マ。リ。張
學。長。マ。指。導。レ。テ。漸。次。解。決。セ。レ。ル。程。取。針。マ。レ。ト。上。程
レ。又。國。民。政。府。二。對。レ。テ。一。反。問。苦。肉。ノ。策。マ。リ。用。レ。テ。刑。士。廉
マ。通。レ。張。學。長。ト。日。本。一。塊。石。如。ト。經。レ。成。空。マ。自。己。推。薦
一。如。辨。マ。リ。弄。セ。レ。ル。嫌。マ。リ。テ。這。般。ノ。消。息。マ。探。リ。レ

張學長。王樹翰。マ。派。レ。郡。刑。士。廉。ノ。苦。勸。マ。監視。セ
大。居。リ。ト。一。統。ス。マ。リ。揚。平。整。及。其。一。派。カ。對。内。對
外。情。勢。二。應。レ。常。ニ。張。學。長。二。不。利。ト。告。報。マ。リ。採。マ。レ。ル
ハ。陰。レ。テ。中。事。實。マ。リ
斯。リ。テ。張。學。長。カ。第。三。者。一。内。政。二。於。テ。揚。平。整。一。派
一。制。肘。マ。リ。テ。日。本。關係。ハ。松。下。ハ。鐵。道。問題。ノ。不。滿
行。ニ。依。ル。意。惑。マ。リ。松。下。國。民。的。修。行。マ。レ。テ。不。利。一。生
揚。二。階。リ。居。ル。ト。下。マ。自。覺。レ。テ。昨。年。十。二。月。前。松。下。三
リ。漸。ク。解。脫。マ。リ。始。メ。自。己。カ。如。ク。陶。高。敏。一。等。祥。一。物
揚。平。二。其。端。マ。見。ル。テ。陶。高。敏。事。仲。ハ。者。結。末。レ。失。レ。修。養

もし如く我孫揚、非揚兩派、策動之發端、居心雖
得、然中身、此同陶安兩人、一程、依り、兩人、其、未、
一、度、を、訊、問、す、然、る、に、ト、ナ、リ、拘、禁、中、程、大、千、傳、持、也
ろ、し、居、る、に、ト、ナ、リ、揚、常、問題、一、解決、ト、其、二、直、に、兩、名、を、
其、二、兩人、其、二、從、前、一、如、り、地位、一、安全、ヲ、得、居、る、に、見、テ、
學、長、カ、揚、字、體、其、一、派、一、策、動、之、依、り、中、傷、之、應、酬、
ス、ル、為、ト、不、本、意、ト、揚、字、體、ヲ、採、り、カ、ル、ヲ、疑、ス、ル、ヲ、得、人
ヲ、又、此、年、末、床、次、氏、自、地、一、來、遊、也、場、右、同、氏、カ
張、學、長、一、會、見、席、上、一、談、其、揚、字、體、一、同、席、ヲ、
其、二、行、費、會、見、日、額、一、額、額、一、張、學、長、之、對、シ、揚、字

21 MARUZEN P.V.M. 51 61

程、重、用、ヲ、説、キ、揚、字、體、之、本、格、一、床、次、氏、等、之、對、シ、茶、會、ヲ、開
キ、テ、考、詰、問、一、會、談、揚、字、體、ヲ、ナ、シ、カ、ル、ト、揚、字、體、ヲ、シ、テ、日
本、自、己、之、依、頼、ス、ル、一、方、キ、テ、直、接、問、接、之、感、知、也、ト、日
ハ、ト、舞、少、ナ、ク、ス、ト、其、二、張、學、長、ヲ、シ、テ、其、二、リ、不、意、ヲ
醸、成、シ、ト、カ、ル、ニ、一、方、大、ナ、リ、シ、テ、懸、念、シ、得、ハ、ク、之、一、前、格、
張、學、長、對、國、民、政、府、一、接、近、ハ、若、シ、ク、進、海、シ、國、民、政、府、
頭、初、熱、河、省、政、府、首、席、湯、五、麟、之、極、力、互、對、シ、者、地、官
一、之、於、テ、其、其、實、現、困、難、ヲ、知、リ、他、之、之、ヲ、母、替、ニ、ル、
究、極、ヲ、之、有、シ、日、之、國、民、政、府、側、之、ヲ、讓、步、シ、急、務
直、下、海、揚、一、進、ヲ、海、ヲ、見、ル、ニ、一、方、張、學、長、側、カ、之、依

22 MARUZEN P.V.M. 51 62

リノ病有る側ト推定ス四リノ揚中並一軍部ノ制大
ニ先ニシテ國民政府側亦編遣會議ノ進行等全國統
一ノ名ヲ得ルニ就意セシ結果ト認メテシ鐵道問題之關
ニ於テ學界客員以來ノ態度ハ既報ノ如ク必ス之
ニ行ハルニ就意セシトト認メテシ免レ其前既
安海負合ヲ通過シ聊有議念ニ付付上ニ送トナリ
日ハ廣東省長楊人本官ニ對シ黑龍江側編遣員大既
ニ同人等ノ之ヲ疏通ニ其通過ヲ保障シ得ルニ有
一ノ形勢ナリ見テ吉林及奉天側ニ在リ對テ
省議會議ノ通過ハ逆送ト難ト毎ニ居カレニ拘

22

P.V.M. 51 63

又昨午十二月二十四日一聯省議會ニハ黑龍江省側議
員全部ノ缺席ナリ本件ニ關スル揚中並一軍部
袁制肘ノ有ナリシハ竊知ニ難カク又要々ニ昨夏來
鐵道交渉ハ不事ニシテ於學界、楊中並一軍部
相互間ノ勢ナキ一員外ナリシ次第ニテ更ニ年末
易職ニ結ヨリ揚ノ態度漸次轉然ヲ現シ本月七日
後ニ對シ鐵道問題ノ急進實現ヲ豫説セシト後者
シテ揚ノ危險ヲ感セシトナリ嫌ナリ加之本月七日
選兩親ノ壽宴ニハ會テ諸作森盛時代ニ稀ニ見
ル東三省各名界有力者ノ鄭重ナル贈物ナリテ同

23

P.V.M. 51 64

各集七上ト一始ト各界ノ人オテ獨羅ニ隱然ナル其大勢力
ヲ想見セシト親々其三利ニナルヲ學能一派ヲニ其身
込ニ寂莫ヲ感シ愈々以テ楊守愚一派ト兩立ニ得ル
ヲ痛感セシト張作相張景惠等ノ策動ト相俟テ
予今同一處決ヲ見ルニセト認メラリ高張作等
楊守愚ノ南方政府ニ對スル策動ヲ材料トシテ張學
良ニ其心ヲ内報シ處決ヲ德源セリト一統アリ
實ニ真偽ト確カク多クニ孫傳芳等皆向ト其ノ現境
ヲ見テ心ヲ定メ風評ノ上ニ上ラリト一統觀望
ニ

24

MARUZEN P.V.M. 51 65

一楊守愚決斷智略
楊守愚者張作相ノ處決ト兩立ノ堅心惠忍ヲ謀フハ
カク其ノ策ニシテ張學良ノ地位ニ力ヲ爲シ危態ニ陥リ居
ルニ要情ニ對シ其癥症ヲ除去セ結果ハ對內的ニ張
學良者自一花向ヲ打破スルニ有勢ナリト疑ハ本處
ナレト云々其者均勢ノ張學良自體ノ軍力ニ依ルニ一
派ノ張學良カ楊守愚者張作相如ト結合勢力
ニ依リ起リ釋置ヲ融シ居ルニト張作相ノ如ク先軍力
比較的消極ニ態度ヲ維持スルニ終局ナルカ楊守
愚一處決ニ依リ張學良ノ左右ニ坐シカク其間ハ常然

25

MARUZEN P.V.M. 51 66

平良直策一青年及張作相張景惠萬福麟韓麟壽
及湯可麟等萬福麟依りて排ハルヒ此輩之排者一階級
ヲ多ク揚者一派ハ國民政府側一者ニ每リ張學良反對
一態度ヲ表スル自然ノ成行ニシテ孫傳芳張宗昌等ノ
張學良勢力恢復ヲ策スルハ到底見レ得ルハ慮ニシテ
張學良將來ノ態度如何ハ依リテ未定者一階級ハ必
然觀ヲ研甘んモテナリ
張學良側近ノ人物中其秘密者鄭謙ハ其素長期間
歷其ノ優劣ノ人物トシテ其思想的ニハ楊宇霆ト其
思想ニ比較的違背ノ態度ヲ有スルモノトシテ近來健

26

P.V.M. 51 67

康ヲ害シ又從業揚宇霆ト一關係密切ナリシヲ以テ既ニ隱
退シ志アリ張學良ニ最近結意對独行ノ傾アリ去日張
道問題ニ關シ國民政府ニ在リシ電報ノ如ク曾テ見テ
鄭謙ニ知ラシメタ又今同楊常慶決一通電ニ來自リ
其要約ヲ認メ僅ニ鄭謙ヲ予修飾セシメテ有自心ナ
リ鄭謙ハ密月ノ十日當館藤村副領事ニ對シテ
道問題一也本國民政府ニ請願セバハ必ズ反對ヲ持チ
見ハル者然リトシ其事實ヲ否定シ居ル日以下今
同ノ楊常慶決ニ對シ其理由一書發ナリト一拒
絶ノ類出ニ新聞紙上ノ消息ニ依リテ豫料ハ楊

27

P.V.M. 51 68

第一反對也車輛運送問題ハ同一人解決ノ為ニ無事
解決スヘントテ強ク自ニ車輛運送ヲ督促シ又漢
河以東軍隊ノ撤退ニ亦相當解決ト通電ヲ接用
シテ其運送ヲ嚴禁シ来ルカ如ク不良モ右ニ
保護スル人物ヲ缺ク使ハ一ニ通電ニモ内外
之ニ乘ズル隙ヲ与ヘ居ルハ強ク自カニ一定ノ
方針ヲ缺ク居ルト其其内部ノ缺陷ヲ示ス
シテ將來自カニ自繩自縛ノ窮狀ヲ暴露スル恐念
アリ

可ク採ルル郭作華ハ其所部砲兵團ヲ基トシ興安一帯
ニ屯田兵團ヲ企劃シ極東兵ヲ糾合シテテ
張作相ニ代リ吉林人ノ吉林實現ノ願ヲ示ス
テテ一統ナリ蒙備ニ於テ其司令部ノ地理
通考ニ黑龍江吉林各邊又者ニ跨ル要衝ニ
據地トシ其行動ノ目下最モ注意ニ値スルナリ
本人ノ出陣ニ依リテ相率漢湖ヲ免レ
楊守恩ハ國共左傾ノ者ノ首領汪清衛ヲ
何ノ關係ヲ有シタルハ疑問ナシ楊守恩前支那

土三藩亦如、馮玉祥及廣西派、内閣、小野、互ニ心算未
ルハキ情勢ニシテ現ニ北平政治層ト右傾派ニ屬
シ其勢力派ハ楊子江流域一治權ニ對シテ三者ト提携スル
意向アリ現ニ周應麟一如キハ其意旨ニ依リ東部セル
拘トスヲ學費カ稱介在ニ結托シ日ハ第一得ルモノニ
非スト評シ居ルハ事實ニ對シテ白崇禧派ヲ振武等ニ提
携シ意アリシハ想像ニ難カラス是等ノ事情ヲ綜合シ
察熱河ニ於テ國民黨指導員等馮玉祥派ニ屬シ及
對シテ學費ハハ牙ヲ挫ク方針トシテ北平方面ハ
楊希一派ニ依リテ益々其氣力ヲ養フル心アリ

MARUZEN II P.V.M. 51 71

孫傳芳一派ハ楊希一井一方任トシテ楊字派カ國民
政府方面ニ策動セシ反張學良行動アリト達言
ルハ孫傳芳ハ吳光新ト結ビ傳芳カ民國十六年
又續武學堂ニテ學習セシヨリ其部下學生入
中名ノ事支軍内ニ位置シ居ルヲ利用シ鮑貴卿
一派ノ李維一及李督慶等一高勢力ヲ併セ奉天
ニ於テ獨立ヲ策シ山海關ニ於テ平學忠ヲ阻内
國民軍ニ改編セシ居ル鄭倭慶李金章徐源泉
軍ヲ外撥トシ獨立セル勢力醸成ノ陰謀アリ楊

MARUZEN II P.V.M. 51 72

宇野一淑カ之ヲ探知シ居ルヲ知り孫傳芳カ急ニ張
學良ヲ誘ヒヨリ楊善ヲ殺リ日リト一統ヲ行ハシム
ルノ是亦真偽確ナラザルニ據信者、張宗昌、褚玉
璞カ實高勢力ノ挽回、新局面ノ展開ニ腐心シ居
ル實情ニ照シハスレモ否定スルニ能ハズ張學良カ楊善
ノ私囊ヲ失ヒヨリ盧溝橋ノ事ニ孫傳芳等ノ策動
ハ其形式ハ別トスレモ其結果ハキ運命ト見ラレザレ
ルニ
之ヲ要スルニ張學良ノ獨裁ハ其左右ニ適当ナル補佐ヲ
得テ其健康ヲ維持シ得ル中否ヤヲ先決問題トシ決

直轄内部部解任ヲ當御シ國民政府ノ應酬シ得ル
ヤ否ヤハ松ノ其運命ヲ決スルニキルカ學良ノ健康ハ
實對内外ノ壓迫紛争ニ應酬スル以前ニ精神的健康
ト其適變的不節制ニ依リ制ルルナキヤヲ懸念セラル
ニキルニ依リテ高湯軍醫ト一推積ニ奏效シ對南關傷
松ノ之カヲ松ノヲ害スルヲ得ルカ其健康ノ恢復並
ニ終極ノ善後トニ依リ得ルヲ得ルニ相者強キ場
ヲ置クヲ得ルト見考セラルル次第ナリ

石第九三号

昭和四年一月三十一日

昭和四年二月十二日接定

陸軍部

臨時代理公使

堀

義貴

外務省在留顧問 田中義一殿

横濱、常陸、陰謀、閣下、新聞記事、譯報、一件

本件三號之二十八日新聞報、北平警備司令官部、新聞記者、週報、
ノ政府、記、下、ハ、新聞、ト、下、別紙、中、ハ、週報、載、シ、ハ、ハ、付、
別紙、乙、号、ノ、週報、ニ、譯、報、云

本館寫込附先 奉天

MARUZEN II

P.V.M. 51 75

(譯文)

横濱、常陸、陰謀、暴徒

新聞記者、週報

本報(新聞報)特種

北平警備司令官部、新聞記者、週報、
ノ、陰謀、閣下、ハ、新聞、ト、下、別紙、中、ハ、週報、載、シ、ハ、ハ、付、
政府、記、下、ハ、新聞、ト、下、別紙、中、ハ、週報、載、シ、ハ、ハ、付、

報告、第十号

横濱、常陸、事件、ノ、内幕、ニ、關シ、探知、シ、得、ル、ト、ハ、以、下、如、ク、
本報、各、報、

横濱、常陸、事件、ノ、内幕、ニ、關シ、探知、シ、得、ル、ト、ハ、以、下、如、ク、

2

MARUZEN II

P.V.M. 51 76

ルカヲ有シ且ツ其ノ根ハ甚ク堅ク羽克ニ其ノ力有カリ
シニ一朝ニシテ兩人共ニ廢命セラレシニ吾今其ノ内者ヲ
問ク如クハ何ニ賢明ナリ乎學長ト雖モ之ヲ一網打尽スル以
外ニハ何等ノ方法ヲ無カリシヤ如シ
今揚、常、德、東、一、臨、韓、ヲ一ニ制奪セハ次ノ如シ
一、昨夏珍作森ハ揚、常、ノ推戴ニ依リテ大元帥トナリ
シ時揚、常、ハ其ノ外交方面ノ承認問題ニ付芳澤
及本庄、顧、蘭、等ノ間ヲ斡旋シテ即力ヲ為シ来
京方面ニ於テハ回中ハ深力ヲ以テ援助セリ即チ
日軍ハ山東ニ至ルニテ津浦線トシテ於ケル九代軍

ノ前進ヲ阻止スルト同時ニ奉天軍ヲシテ極力京滬
京海兩方面ニ進取セシメ目的達成後ノ報酬ト
シテ日本ノ滿蒙ニ於ケル特權權ヲ承認シ
日本人ノ奉天軍勢力範圍内地ニ於ケル特權
權ヲ承認スルトセリ其ノ後軍事逼迫シ前線ノ
直魯軍ハ全部大敗シ奉軍又其ノ影響ヲ受ケテ
各方面齊シテ退却セリ奉軍ノ退却ニ先立テ珍作
森ハ堅ク大勢上ノ利害及將來ノ変化等ヲ作
森ニ陳ヘテ貴ノ裁可ヲ請ヘリ當時ノ和平通電力
揚、常、ノ知ラザル間ニ案セラレハ即チ保身ノ防禦

下格レハルカ為ナリ此ノ通電一應悉セラルルハ日本ハ大
 イニ強ク日ハカ約定ノ各機穿ハ遂ニ水泡ニ歸セリ
 後横、常穿ト之カ責ヲ強ク作シ一身ノ歸セトハルカ
 日本ハ一強心、衆ニ對スル怨根骨髓ニ達セリ是ヲ
 作爲爆死ノ一原因ナリ
 一、揚、常穿ト日本トノ密約締結後強ク作シ左右ノ政界
 ノ者ニ強ニ對シ例日本ニ依頼シテ大事ニ成功スルニ
 在ハ第ニ非サレミナリ又密ヲ後日ニ強クサトナリ強
 ケルヲ以テ強ク代ハ外支總考互陰毒ニ命ジテ自
 害ヲリテ事借用ヲ拒絶セリト子人ヲ強クシ山

東駐在日米軍ノ動靜ヲ調査セシトナリ是亦爆
 死ノ一原因ナリ
 皇姑也ノ爆彈事件發生後横、常穿ト一歩ヲ進メ
 于秘密裡ニ日本ハ前奉天總領事赤塚及芳澤
 トノ間ニ密接ヲ往來セシメテ最近ニ計畫セシ陰謀
 左ノ如シ
 一、日本ハ一承認ヲ揚々奉天、吉林、遼龍江熱河
 及内蒙古ヲ大遼共私國（或ハ君主國、赤党外
 人ニ近中モ）トシ軍事期ニ在リテテ暫定的ニ
 強學良ヲ大元帥ニ推戴シ揚々力強クシ但シ強

字良一権順日ルヤ否ヤヲ以テ是カ去秋ヲ決メテ戰事
 平定後揚ク首領ニ推戴シテ大總統トシテ常皇カ副
 トス
 一該事件協定内容ハ前者ノ署名以前即チ事件ノ
 暴発トナル最短期間内ニ於テハ揚常カ全責任ヲ
 以テ極力中國ノ統一ヲ易職ヲ阻止ス
 一昨年十二月二十九日張宗良ノ易職實行後日本
 及揚常ハ更ニ密に謀議シ且積極的ニ運動ヲ續ケ
 張宗良ニ對シ吉林ノ張作相、黑龍江ノ高福麟
 智辯ヲ幹職カシメ之ニ代フルニ揚一部下ヲ以テ也

ムトヲ要求セリ
 一揚常ハ秘強種ニ三百萬元ノ現金ヲ日本ニ送リテ
 日本銀行機及大砲等ノ軍需品ヲ購買シ以テ
 臨時ノ需用ニ資スセリ
 一日本政府ハ揚常推測ノ目的ヲ以テ朝鮮駐屯
 軍中九師團ノ全部ヲ日本内地ノ全海軍師團ノ部
 ノ東支、樺、朝ノ一帯地方ニ派遣シ揚常ノ軍事
 的援助ノ實行ヲ電命セリ
 一張宗良以上ノ各事更ニ探知セシメ的強ノ氣
 概無キヲ限リ居レリ實に揚常日本領事

獨りて... 是三者ノ事ト云ハムヨリハ寧ロ中ノ全
 休事ナリ
 一月二十六日 諮議院議長 謹呈

P.V.M. 51 84

一、東京政府ノ密令ニ基キ張學良ニ留職ヲ許サズ同特
 ニ又東三省ノ局勢ハ永久ニ能ク中國ヲ統メンテ後
 亂事ナクハ得ズ
 當路張學良ノ揚、常、陰謀ヲ確メル事案ト認メ
 リ
 一、楊、常、陰謀ノ數日前日本軍艦ニ朝鮮ヲ陸軍一
 大隊ヲ奉天附近ニ派遣シ來レリ者張學良ハ日
 兵一既ニ國境ヲ越ヘ移住スルニ於テハ最早揚、常
 ノ院ヲ一方法無ク東三省ハ第一朝鮮日軍トテ
 恐レ急ニ手ヲ下レテ以テ其ノ患ヲ未然ニ防グ

P.V.M. 51 83